

弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要 (第1回)			
日時	令和元年7月19日(金曜日) 18時00分～20時00分		
場所	弘前市役所市民防災館3階防災会議室	傍聴者	3人
出席者 (21人)	委員 (13人)	佐藤会長、生島会長職務代理者、下山委員、小山委員、大西委員、鴻野委員、安田委員、大塚委員、八木橋委員、斎藤委員、宇野委員、青山委員、柴委員	
	執行 機関 (8人)	櫻田市長 市民協働課	三浦部長、高谷課長、中村係長、阿保主査、小山主事、村上主事、菊地主事
会議概要			
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 組織会</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 会長の互選について</p> <p style="padding-left: 4em;">○委員の互選によって、佐藤三三委員が会長に再任された。</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 会長職務代理者の指名について</p> <p style="padding-left: 4em;">○会長は、会長職務代理者として生島美和委員を指名した。(再任)</p> <p>5 諮問書提出</p> <p>6 事務局員紹介</p> <p>7 議事</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 審議会の趣旨及び役割等について</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 令和元年度における審議方針等について</p> <p style="padding-left: 2em;">(3) 今後のスケジュール(予定)について</p> <p>8 報告</p> <p style="padding-left: 2em;">平成30年度答申への対応について</p> <p>9 勉強会</p> <p style="padding-left: 2em;">○弘前市協働によるまちづくり基本条例の趣旨、制定された背景等について、委員の共通理解を図るため、佐藤三三氏を講師に、勉強会を開催した。</p> <p>【各委員の意見等】</p> <p>委員：少子化が進むと、行政だけではものが決まっていけない。それから市民の</p>			

意見も、今後はいままでより大きな意味を持つてくると思う。

会長：ポイントは協働するということ。ただ単に市民にやれという形では市民も反発する。難しいことではあるが、協働していくことが、新しい市政運営、住みよい弘前市を作っていくポイントになる。他の自治体では行政は市民をどうサポートするかという考えのところが多い。弘前市は一緒にやっていくという方向になっていると思う。

委員：もう1点。「住みよいまち」という文言がよく使われるが、これまでの議論の中では、「経済」という点が入っていない。その辺はどうなのか。

会長：経済も大事である。本来はそこまで踏み込まなければならないと思う。したがって、企業の参画も必要だと思うし、市の経済政策、農業政策など、そういう問題にも踏み込んでいかなければならない。単なるコミュニティの道路づくりや草刈りだけではなく、市の経済や政治、全てについて考えていく必要がある。

委員：まちづくりの3つの主体（市民等、議会、執行機関）、市民等の分類、今年度審議する内容を確認すると、執行機関の職員も議会議員も、市長も全て同じ弘前市民という目線で取り組まなければならないと思う。分類されたそれぞれの中に、リーダーや決定権を持った人がおり、それぞれの立場で役割を持って協働していくということが基本だと思う。

委員：お互いに丁度いいさじ加減で関わりを持っていくのがいいのかなと。

委員：「協働の場づくり」については、その「場」が大事と言われている。では、実際にどうやって場を作っていくか、その場をどのような位置付けにしていくかはなかなか難しい問題である。「これからどんな場を作っていけるか」、「それをどうやって市民の方々に活かしていただけるか」について議論していければと感じている。

会長：弘前市は協働について、単に市民協働課だけの問題でなく、全庁的な取り組みになっている。委員の言うとおりに、場づくりは大事。

委員：これまでは、行政は指導し、市民は従うというような印象である。また、議員についても市民の代表ではあるが、どちらかという議員本人の考えが先行し、市民の意見と合わない部分もある。そういった部分についても今後議論が必要になってくると思う。

10 閉会